研修視察報告書

令和　５年８月３１日

〔自由クラブ〕

代表者氏名	山下　登　　印	記録者氏名	柏　元三　　印
視察者氏名	柏　元三		
視　察　日	令和５年４月２９日、５月１３日		
視　察　先	学校法人　神戸セミナー		
目　　的	不登校の子ども救済		

神戸セミナーはサイコセラピー専門家・喜多徹人学長が主宰する「不登校の子どもの再起」を請け負う学校法人である。サイコセラピーは奥が深く一言では言えないが、「一人一人の感情・行動に影響を与えている『無意識』にアプローチして、エビデンスに基づいて問題を解決する手法で、一般的な心理療法士や臨床心理カウンセラーが行う心理療法と異なる。

４月２９日　不登校講演会

５月１３日　笑顔を増やす会話の技術

基本的なコンセプトは「元気」である。

知らない人が多でしょうが、多様性が重要視される時代に即応すべく、文科省も学校の在り方を見直しており、学校は、義務教育ではあるが、人生をかけてまで、行かなければならない場所ではないと方針を転換している。しかし、多くの保護者はそのことを知らず、「学校へ行かなければ、人生を落ちこぼれてしまう」と思っており、不登校への対応に適切さを欠き、不登校の子どもをさらに追い詰めてしまうケースが多い。不登校の子どもに「どう接したら良いのか」悩みが解決できないまま途方に暮れて居る保護者が多い。

喜多先生は、不登校の子の生活を修正するためには、まず初めに「元気を取り戻すことが不可欠」であると言う。不登校の子がどうしたら元気になるか、笑顔を取り戻すことが出来るか、やり方は一様ではない。無意識のうちに落ち込んでいる要因、自信を無くしている要因を取り除くためにやるべきこと等を探り出して、子ども個々の処方箋を一緒に考える。

二度の講演は「不登校の子どもに元気を」だけであった。これだけの講演を６時間も話してもらった。「元気を取り戻す」ことだけでも如何に難しいか。

不登校の子が無理に登校すると、とても明るく元気にふるまうことが多いと言う。理由は、その子は「不登校の子」と見られたくないために、全力で無理をして元気と笑顔を演じている。先生も保護者も喜ぶが、子どもは下校後は疲れ切って、回復までに相当の日々がかかる。さらに、不登校の要因を拗らせるケースが多いと言う。

「目から鱗」の話で、これだけでも神戸に行った価値があると思うとともに、喜多手法を名張市に導入すべきと強く感じ，フリースクールの重要性も学んだ。

「神戸セミナー」については教育長に紹介し、ぜひ名張市で活用して欲しいと、口頭で要望した。